令和7年9月10日 様式2-1

令和7年度 評価計画及び自己評価

(計画・中間・最終)

仁方中学校区 校番 1 学校名 呉市立仁方小学校

a 学校教育目標 自ら学び 心豊かな児童の育成	b 経営理念 ミッション・ビジョン	〈ミッション〉(学校の使命) 学校や郷土を誇りに思い、生涯にわたり生き抜く力【自己実現】や社会に貢献できる力【地域貢献】を身に付けた児童の育成 〈ビジョン)(将来の学校像) 〇生きる力、知・德・体)を育成する学校 ○安全・安心な風土の高い学校 ○保護者・地域と協働し、信頼される学校
-------------------------	----------------------	---

c 中期経営目標を踏 まえた現状(進捗状 況)と今年度の重点

〇全国学力・学習状況調査では、全国平均は上回ったものの、国語科では話すこと・聞くこと、算数科ではデータの活用に課題が見られた。標準学力調査では、国 語科では、2・5年、算数科では2・4年が全国平均を下回った。市販テストの「思考カ・判断力・表現力」においては、29%の児童が80%を超えることができず、40%を 下回る児童が49%いた。学習と生活をつなぎ、生きた学力を身に付けさせるため、教材開発や思考を促す発問の工夫、学びをつなげる振り返り方の工夫などに取り

育成を目指す資質・能力

知識•技能 思考力・判断力・表現力 主体性・協働性 規範意識・公徳心

評価計画(中期経営目標を設定してから 1 ・ 2 ・ 3 年目)					自己評価						
重点	d 中期(3年間) 経営目標	e 短期(今年度) 経営目標	f 目標達成のための方策 (こんなことをして達成します)	g 指標 (効果を見とる目安)	h目標値	上半期			下半期		
						i 達成値	j 達成度	k 評価	i 達成値	j 達成度	k 評価
**** 自己実現	貫) 主体的に学び、思え 考力・判断力・表 現力を育てる。	貫) 生活をよりよくす るために、自分の 考えを深め、表現 する授業づくり	・生活場面や他教科等との関連を図った単元開発(仁方中学校区学習過程) ・児童生徒にとって身近な事象や生活場面からの教材開発 ・思考を促す発問の工夫 ・多様な表現方法の工夫 ・学びをつなげる振り返りの工夫	国語科・算数科市 販テスト「思考力・ 判断力・表現力」 75 %以上の児童	80%	65 %	81 %	В			
		貫 基礎学力の定着 と向上	・基礎学力の定着「スキルタイム」「キュピナ」 ・読書活動(読書タイム・週末家庭読書) ・学力の補充「スマイルタイム」 ・自主学習「ぐんぐんノート」 ・複数教員による個別の支援体制	国語科・算数科市 販テスト40%未満 の児童	0%	6%	94 %	В			
		体力の向上	・体育の授業におけるサーキット運動の導入・委員会の取組・朝会でのボールの投げ方のレクチャー	ソフトボール投げ 県平均以上	70%	51 %	73 %	С			
**	到 自らを律し、他人 を思いやる豊かな 心を育てる。	貫 規範意識の向上	・黙想の徹底 ・無言掃除の徹底 ・ナイスな仁方っ子紹介カードの活用 ・生活目標の振り返り	「学校のきまりを 守っている」児童	90%	94 %		Α			
豊かな心		貫 安全・安心な風土 の高い学校	・いじめの未然防止のための共感的人間関係の構築 ・積極的に肯定的な声かけや評価	「学校へ行くのは 楽しい。」と感じて いる児童	90%	85 %		В			
			・ナイスな仁方っ子紹介カードの活用 ・心葉っぱの活用 ・教職員からの肯定的評価や児童同士の相 互評価 ・生活目標の振り返り	「相手の気持ちを 考えた言葉づかい や行動ができてい る。」と感じている 児童	90%	94 %	104 %	Α			
		「自分の命は自分で守る」カの育成	・定期的なハザードマップの確認・土砂災害携帯マニュアルの確認認・実践的な避難訓練の実施	「住んでいる地域 に起こりやすい災 害が分かる」児童	100%	96 %		В			
				「災害時に避難する場所や避難の 仕方が分かる」児 童	100%	97 %	97 %	В			
* 業 黎	教職員が自らの 意欲と能力を発揮 できる教育環境を 整備する。	児童と向き合う時間 を確保する。	・会議の精選・時間短縮や校内 研修の計画的な実施	「児童と向き合う時間が確保されている」と感じている教職員	90%	92 %	115 %	Α			
務改善		長時間勤務を削減する。	・ICTの活用と業務の効率化 ・退勤時間設定と遵守	時間外勤務が月 45時間を超えない 教職員	80%	72 %	90 %	В			